



五はで“片方の手”の象形です。片手には指が五本あるところから、“いつつ”という意味を表わしたもので指事字です。

伍は、“五人”という意味の会意形声字です。軍隊では、五人をひと組とし、これを一つの単位にしました。これが伍です。この伍の長が「伍長」で、わが国の軍隊でもこの名称がありました。昔の軍隊は五人ずつ列を作って行動したので、これを「隊伍」と言います。日本の軍隊は四人一列でしたが、四人でも伍と言って、“隊伍を整えて行進する”と言いました。仲間から取り残されることを「落伍する」と言いますが、これは、行軍で隊伍から脱落するという意味の軍隊用語です。

吾は、自称のことばです。普通自分を指す時には“ぼく”と言って鼻をさします。自分の自、私のムは皆鼻の象形です。ところが、吾は、口に相人五)を加えて“わたくし”の意味を表わした会意字です。口を指さして“ぼく”と言う意味です。

語は、“われ(吾)言う”という意味の会意形声字です。“ものがたる”ことです。物語り。“かたる”が本義ですが、今は“ことば”の意味に

多く使われます。国語。古語。語源。標準語。

悟は、“われを認識する”ことで、^{われ}吾と心との会意形声字です。人間は、他人のすることはよく見えて、そのよしあしはかなり公平に判断できますが、自分の姿は見るできないように、自分の行為はとかく利己的におち入りがちです。そこで心の鏡によくわれをうつしてみることが大切です。心の鏡に吾がよくうつった時に、これを悟(さとり)と言うのです。真の吾をわが心に理解することです。

寤は、寝(ねる)の意味のと吾とで、“ねむりからさめて吾にかえる”という意味を表わした字です。“さめる”ことです。「寤寐にも忘れぬ」とは、“寝(寐)てもさめても忘れない”という意味のことばです。